

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月7日～9月13日)

2021年9月17日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領とプーチン露大統領との会談(9/9、モスクワ)
- ベラルーシ・ロシア共同軍事演習「ザーパド 2021」の実施(9/10～16)
- ベラルーシ・ロシア連合国家閣僚会議会合の開催(9/10、ミンスク)

【ルカシェンコ大統領動静】

- プーチン露大統領と会談(9/9、モスクワ)
 - ・両首脳は28件の連合プログラムに合意。
 - ・ルカシェンコ大統領は記者会見で要旨以下を述べた。「ベラルーシはロシアからの新たに融資を必要としない。」
 - 「両国は共通の挑戦と脅威への共同対処を強化していくのみだ。」
 - ・プーチン露大統領は会談後の記者会見で要旨以下を述べた。「ロシア産ガスはベラルーシに対して2022年も現在と同等の128.5USD/千立米で提供される。」
 - 「2023年12月1日までに連合国家の枠内でガスの統合市場に関する文書が署名される。」
 - 「石油・石油製品市場の統合に関する条約及び電力の統一市場に関する合意の締結も見込まれる。」
 - 「まずは経済に取り組んだ上で、その後は当然、すべてが追加的調整を要するだろう。連合議会などの創設についても排除しない。」
- (9/9 大統領府、ベラパン通信、Zerkalo.io)

●バストリキンの捜査委員会議長と会談

- ・大統領は会談の席上、前日のプーチン露大統領との会談を振り返り、以下のように述べた。
 - 「捜査機関のことはずっと我々(両首脳)の議題に上っていた。露大統領との間で、この困難な時期に両国の捜査機関を支えていくことで合意した。国際情勢が我々にそれを強いている。難民の流入や麻薬がロシアとベラルーシを呑み込もうとしている。したがって、捜査機関や事前尋問の役割が非常に増している。と

もに職務を果たそう、あなた方は我々をいつでも頼ってくれて良い。」

- ・大統領はまた、連合国家最高評議会の次回会合が11月4日に開催され、同会合で、9月9日にプーチン大統領との間で合意した連合国家プログラムが承認される計画である旨発言。
- (9/10 大統領府、ベラパン通信)

●EU との間のリアドミッション(注:在留資格なしと判断された人の再受入)協定の効力を停止する法案を議会に提出。

- 同法案はEU及びその加盟諸国によるベラルーシに対する非友好的行動への対抗措置の枠内で準備されたもの。同協定は、協定当事者の双方のいずれか一方は、他方に対して公式に通知することにより(協定が義務づける)行動の全部または一部を一時的に停止する権利を有する旨規定している。
- (9/8 大統領府、ベラパン通信)

●ベラルーシ・ロシア両国共同軍事演習「ザーパド 2021」を視察

- 大統領は要旨以下のとおり発言。
 - 「(9/9のプーチン大統領との首脳会談を振り返り、)我々は交渉を行っており、対空ミサイルシステム S-400の供給を計画している。プーチン露大統領は、弾道ミサイルにも対処できるより新しいシステム S-500にも言及した。それは真に有効なシステムである。ありがたいことに、西部方面の周縁は現在、S-300対空ミサイルシステムで完全にカバーされている。」
 - 「しかし、諸君らも承知のとおり、我々には南部方面が

加わった。南がきな臭くなってきている。我々は備えなければならない。ウクライナとの国境は 1200km もある。だからこそ我々はこの周縁も閉鎖しなければならない。我々はちょうど、S-400 が適切であるという話をした。その上でプーチン露大統領はショイグ露国防大臣に、我々にこの対空ミサイルシステムを供給できるようにするために、こうした問題を我々と検討するように指示を出した。」

(9/12 大統領府)

【外交】

●9/8、ゴロフチェンコ首相がペロズヨロフ・ロシア鉄道総裁と会談。

ゴロフチェンコ首相は、ベラルーシが外国から制裁を受けている状況下、ロシアの物流回廊を最大限活用していくことを表明。

(9/8、9 ベルタ通信、ベラパン通信)

●マケイ外務大臣とヨジッチ教皇庁大司教(駐ベラルーシ・バチカン大使)が会談

・マケイ外務大臣は、バチカンとの建設的協力のさらなる発展を志向することを明言。また、ベラルーシにおけるローマカトリック教会に対する公式使節としての待遇が揺るぎないものであると強調された。

・9/7、ミンスク市執行委員会の機関紙であるミンスカヤ・プラウダ紙が一面にナチスの鉤十字とともにベラルーシのカトリック司祭を描いた風刺画を掲載し、カトリック教会がベラルーシ当局に対して、同風刺画及び同紙への掲載に関して然るべき法的評価を下すよう期待を表明していた。

(9/9 外務省、ベラパン通信)

●ベラルーシ・ロシア連合国家閣僚会議会合の開催

9/10、ミンスクで開催された同会合で、前日に両国首脳が合意していた 28 件の連合プログラムが採択された。同プログラムの全文は非公開で、項目と概要のみ公開。主要な項目は以下のとおり。

経済政策、貨幣政策、通貨政策、金融分野の情報セキュリティと資金洗浄対策、税・通関法、農業政策、産業政策などの擦り合わせや調和の他、ガス・石油・

石油製品・電力の両国共通市場の形成、国家調達への参入規制の統一、社会・労働政策の調整など。

(9/10 ベラパン通信)

【内政】

●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

9/6

・スポーツサイト「トリビューン」の元記者アンドレイ・マシロフスキー氏が 15 日間の拘束。同サイトは当局により過激主義に認定されていた。

9/7

・ベラパン通信のノヴォジロフ前代表とレフシナ現代表兼編集長が前週に起訴されていたことが判明。これに伴い、両名に対して 2 か月間の拘留措置が取られた。ベラパン通信は 8/18 に家宅捜索を受け、両名を含む同社幹部や記者が多数逮捕され、同社サイトも閉鎖されていた。

・9/2 以降のニュースサイト「メディア・ポレシエ」(ブレスト州)のアクセス制限は、同サイトが過激主義に認定された情報を掲載していたことによるものであると検察当局が発表。

・ポータルサイト「バーチャル・ブレスト」のアンドレイ・クハルチュク編集長が当局者侮辱罪(刑法第 369 条)で刑事告訴される。

・最高裁判所が個人事業主の権利保護団体である「ペルスペクティヴァ」の閉鎖を決定。

9/8

・昨年、政治的理由による訴追を避けて出国した元 TV ラジオ・パーソナリティのカツィアリナ・ピトリエヴァ氏のミンスクの自宅が警察によって強制捜査される。ピトリエヴァ氏は、夫・子供と共に住む欧州の国から、ミンスクの自宅内が荒らされた様子を示す写真を SNS に投稿。

・ブレスト州ピンスクの人権保護活動家ヴェロニカ・イワノワ氏に対して、当局が過激主義に認定したテレグラム・チャンネルに警察官の個人情報を投稿した容疑で捜索。

・トロリーバスの中で(反政権デモの際の掛け声として知られる)「ジヴェ・ベラルーシ(ベラルーシ万歳)！」と叫んだ廉で、61 歳のミンスク市民が逮捕され 30 日間

の拘留。

9/9

・電車の中でベラルーシの古典文学を読んだことにより罰金を科されていた年金生活者の女性 2 名に対する家宅捜索が行われた。

・ミンスクで髪を白赤白の色に染めていた 19 歳の女性に対して 2,320 ベラルーシ・ルーブル(10 万円強)の罰金刑の有罪判決。

(9/6~9 ベラパン通信)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

全般

・9/7~13 にかけてベラルーシからポーランド、ラトビア及びリトアニアへの不法入域を試みた人数は、平日で約 240~380 人、週末は計約 600 人。

EU の動き

(1)リトアニアが対ベラルーシ国境に 21km にわたる有刺鉄線を設置。

さらに今後、総延長 508km の有刺鉄線を張り巡らせる計画があることが、9/10 に行われた不法移民対策に関するバルト諸国とポーランドの内務省幹部協議で明かされた。

(2)メルケル独首相とモラヴィエツキ・ポーランド首相がベラルーシ政権による不法移民の悪用を批判。

9/11 にワルシャワで実施された両首相の会談で、対ベラルーシ国境における状況が主要議題の一つとなった。両首相の発言要旨は以下のとおり。

・モラヴィエツキ・ポーランド首相

「ポーランド・ベラルーシ国境で起きていることにつき、メルケル首相に詳細に説明した。我が国は、不法移民そして我々が原因ではない動きからヨーロッパを守る上で、EU 及びドイツ政府から全面的な支持を受けている。」

・メルケル独首相

「国際機関、特に赤十字に対して、人道上厳しい状況に置かれた人々への支援を呼びかけるとともに、異なる地域から来た無防備な人々がハイブリッド戦争に利用されていることを認識するよう呼びかける。」

「先日、プーチン露大統領にも特定の人々の境遇を利

用してハイブリッド戦争を実行することは容認できないことを伝えた。」

(9/7~13 ベラパン通信)

●ベラルーシ及びロシアの空軍・防空軍の共同教練のために設立された軍事訓練センターで、両国の高高度ミサイル・航空部隊が共同哨戒任務を開始

(9/7 国防省、ベラパン通信)

●ロシア航空宇宙軍の戦闘機 Su-30SM がグロドノ州バラノヴィチ飛行場に到着

同戦闘機の到着は、本年 3 月 5 日にベラルーシ・ロシア両国国防大臣が合意した、両国内における 3 か所の共同軍事訓練センター設置に関わるもの。同合意に基づき、ロシア領内には陸軍の訓練センター及びバルチック艦隊を基盤とした訓練センターが設置される。

(9/8 国防省、ベラパン通信)

●露イヴァノヴォ州のペソチノエ演習場でベラルーシ・ロシア特務部隊諜報部門が特別訓練を実施。約 400 名が参加(9/7~9)。

9/7 には両国パラシュート部隊の降下訓練の他、戦場医療の対処や対戦車地雷の敷設訓練が行われた。(9/9 国防省、ベラパン通信)

●ベラルーシ・ロシア共同軍事演習「ザーパド 2021」の実施(9/10~16)

同演習はベラルーシ国内の 4 か所の演習場で実施される。9/9 の演習開会式典でグレヴィチ国防第一次官兼参謀総長(少将)は、要旨以下のとおり発言。

「本演習は、連合国家の主権、領土一体性及び独立の保障のための共同行動におけるベラルーシ軍及びロシア軍の準備能力の高さを披露するものとなる。それは西側の集団に対して、ベラルーシ、ロシア、カザフスタンなどの集団安全保障条約機構(CSTO)加盟国の国民に対する力を背景とした対話が成果をもたらさないことを示すの一種のシグナルとなる。」

(9/10 ベラパン通信)

【経済】

●国際通貨基金(IMF)による特別引き出し権(SDR)の割り当てにより、ベラルーシの外貨準備が 10 億 USD 以上増加

・ベラルーシの外貨準備は 8 月に前月比 10 億 5430 万 USD (14.2%) 増となり、9/1 速報値で 84 億 9,670 万 USD 相当となった。

・IMF は 8/23 に総額 6,500 億 USD 規模の SDR の配分を行い、その内途上国に対して 2,750 億 USD が配分され、ベラルーシには 9 億 USD 相当が配分された。

・国外在住のベラルーシ民主活動家や在外ベラルーシ人の代表者らは IMF に対して、ベラルーシで新たな自由選挙が実施されない限り現政権による SDR へのアクセスを停止し、SDR の自由兌換貨幣への交換を凍結するよう呼びかけていた。

(9/7 ベラパン通信)

●導入中のベラルーシ・ロシア間の旅客航空便の制限が 9/21 に解除されることが決定。

・制限解除は 9/9 のベラルーシ・ロシア首脳会談で決定。同制限措置は COVID-19 感染拡大防止措置として取られていた。制限前は両国間で週 200 便以上の旅客便が運行されていたが、現在は 36 便まで減少している。

・現在、ユーラシア経済同盟(EAEU)加盟国ではモバイル・アプリ「COVID-19 無しで旅する」が導入されており、新型コロナウイルスの検査結果を電子的に提示することが可能となっている。

(9/10 ベラパン通信)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表のポーランド訪問 (9/7-9)

・ラウ外務大臣との会談(9/7)

・欧州投資銀行(EIB)副総裁との会談

あり得べき改革案と新たなベラルーシの経済に対する投資について議論。

・カルパチア経済フォーラムに参加し、サダヴォイ・リヴィウ市長(ウクライナ)やベラルーシ・ペン・センターのホダノヴィチ代表とも会談。

・サダヴォイ・リヴィウ市長は同市内にベラルーシの独立系ジャーナリストのためのメディアハブを開設することで合意した旨、自身のツイッターに投稿。

(9/7~9 チハノフスカヤ氏公式サイト、ベラパン通信)

【その他】

●国際アイスホッケー連盟(IIHF)が、ベラルーシアアイスホッケー連盟会長に対して 5 年間の資格停止処分を発表。その後、同会長は辞任を表明。

・IIHF は、ベラルーシスポーツ連帯基金(BSSF)からの報告書を受けて独立系調査会社に依頼した調査、及びドミトリー・バスコフ・ベラルーシアアイスホッケー連盟会長本人からの聴取の結果、同会長が自らの地位を悪用して選手らに対してベラルーシ政府を支持するよう影響力行使を試み、選手らの政治的信条に基づいて脅迫及び差別を行ったと認定。バスコフ氏は、2021 年 9 月 10 日から 2026 年 9 月 9 日までの 5 年間、国内及び国際的な活動から除外される。

・ベラルーシアアイスホッケー連盟は、IIHF の決定は政治的圧力によりもたらされたものであるとの声明を発表。また、今回の IIHF による決定についてローザンヌのスポーツ仲裁裁判所(CAS)に不服を申し立てる決定が近日中にベラルーシアアイスホッケー連盟内で採択されるとの見通しを発表。

・9/10、バスコフ氏はベラルーシアアイスホッケー連盟会長を辞任する意向を表明。

・9/14、ルカシエンコ大統領はバスコフ氏を共和国院(上院)議員に任命。

(9/8、10 ベラパン通信、9/14 大統領府)

(了)